



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



竹山・成相両神父の金祝など検討

4月の鹿児島教区司祭評議会

4月11日(火)午後から教区本部で司祭評議会が開かれた。主な議題は①竹山師、成相師の金祝について、②社会司教委員会の「出前研修」について、③ファティマのマリアご出現百周年について。

①今年教区内で金祝・銀祝を迎える司祭・修道者は竹山昭師と成相明人師で、いずれも鹿児島教区司祭。教区主催での祝いは、12月3日(日)午後からカテドラルでミサをささげ、その後パーティを開くことに決まった。開始時刻など詳細は後日決定する。

②今年1月の司祭大会で、カトリック中央協議会の社会司教委員会が司祭・修道者を対象にした「出前研修」を今年度企画していることが紹介された。正義と平和協議会、カリタス・ジャパン、HIV・AID Sデスクなど社会司教委員会担当の13のテーマに関して、司祭や修道者の定期的な集会などに合わせて同委員会が講師を派遣し研修を行うというもの。検討の結果、教区では9月19日(火)のコンベンツス時に

4月のコンベンツス

4月12日(水)、教区本部でコンベンツス(全司祭集会)が開かれた。今回は、緊急に審議する議題は特になく、前日の司

全島あげて復活を祝う

司教も駆けつけ奄美大島で合同ミサ

4月16日(日)の復活の主日、奄美大島地区教会では郡山司教とともに合同で復活祭を祝った。会場の大熊小教区(タム神父主任司祭)の巡回浦上教会の庭には特設の祭壇が設置され、全島から450人余りの信徒が駆けつけた。



ミサで説教した郡山司教は「何が私たちの生き方を難しくしているか?」と問いかけ、神との付き合い方のコツを伝授した。

司教は、熟練した運転や大好きなスポーツは楽しんでやるのに比べ、信仰することには疲れを感じる信者が多いことに対して「神との馴染みが不足している。お付き合いの仕方のコツを外している」と語った。その上で、私たちにとって大切なのは「いい信者になりたい」「神の心を知りたい」という思いだと断言。聖人になるように招かれている私たちは、「ありがたう」「ごめんなさい」の言葉を大切にしながら、神と馴染むために「起き抜けの祈り」を大切にしたい。

朝目覚めたその時から「神よ、あなたが讃えられますように」と祈り、前向きな自分をイメージし続けていくことで、少しずつ心が敏感になり神と馴染んでいくとすることがすでに決まっている。

120区画で検討 教区納骨堂建設委

4月9日(日)、教区本部で納骨堂建設委員会が開かれた。今回は建設を依頼する予定の前迫石材が提案した納骨堂案について検討した。納骨堂の内容は、①単身者・核家族用の屋外型と②散骨式の合祀墓の二つ

とすることがすでに決まっている。前回現地を確認した建設用地の規模から、納骨堂は120区画でできること、また、合祀墓は散骨式にしなくても、規格が小さい骨壺で納める形式で十分利用希望者の目的を果たせることが分かった。その形式を採用することに決した。今回は建設費の見積もりが出される予定。

ポルトガルのファティマの出現では、ご自分がロザリオの聖母マリアであることを明かして、人々に回心することなどを求めた。聖母出現の中でファティマの出現は最も預言的なものとされており、第一と第二部では地獄の幻視、第二次世界大戦、ロシアへの憂慮を述べつつ、回心とマリアの汚れなき清心への信心によってそれらを回避するよう言及している。

ファティマの聖母について

10月の出現では、ご自分がロザリオの聖母マリアであることを明かして、人々に回心することなどを求めた。聖母出現の中でファティマの出現は最も預言的なものとされており、第一と第二部では地獄の幻視、第二次世界大戦、ロシアへの憂慮を述べつつ、回心とマリアの汚れなき清心への信心によってそれらを回避するよう言及している。

刷新運動の始まり

今年、カトリックでの聖霊刷新のきっかけとなったアメリカでの出来事「デュケインの週末」(1967年2月18日)から50周年、日本では45周年を迎えます。聖霊降臨節には、フランススコ教皇の呼びかけでローマで祝賀大会が開かれ、日本からも40人ほどが参加予定です。

この「デュケインの週末」の出来事とは、超教派の「チャペル・ヒル・ミーティング」という聖霊刷新の集いに参加したアメリカのデュケイン大学の2人の教授を含む4人のカトリック信者たちが、熱心に祈り始めたことから始まります。1967年2月17日から週末を利用した黙想会を開きました。聖霊降臨のような恵みを熱心に祈ったところ、参加した教授や学生たちが、預言や癒しの賜物を体験しました。1人の教授は「私はもうペンテコステを信じる必要はない。私はそれを見たのだから」と証しています。(末吉卓也)

短信

吉野教会で堅信式 4月2日、吉野教会では、堅信式があり2人が受堅の恵みに浴した。

教区司祭人事

坂本進神父(教区本部)は、ザビエル教会協力司祭

修道会人事・消息

柳本繁春神父(コンベンツアル会・本河内教会)は、古田町教会協力司祭

聖霊について学ぼう

指導 F・マッケイ神父(聖コロンバン会) テーマ 約束された命 日時 5月10日から毎週水曜日、8回。午前10時〜正午 場所 ザビエル教会

ファティマの聖母ご出現記念ミサ 5月13日(土)14時 鹿児島カテドラル 司式 泉浩二神父

参加費 自由献金 ※テキストは「聖霊による刷新」、事務所ヒスロ発行「新生への門出」(500円)。セミナー開催中に販売 主催 聖霊による生活刷新セミナー奉仕グループ 協力 末吉卓也神父

教区で働く聖職者たちの顔ぶれ

2017年度 司祭・終身助祭



郡山健次郎司教



始良・溝辺教会
アン神父



始良・溝辺教会
バク・チャンキュ神父



指宿教会
デイーノ神父



加世田教会
バク・ジンヤン神父



鴨池教会
泉 浩二神父



ザビエル教会
竹山 昭神父



ザビエル教会
貴島丈弥神父



ザビエル教会
坂本 進神父



谷山教会
頭島 光神父



谷山教会
ムイベルガ神父



谷山教会
ボスコ神父



種子島教会
栃尾泰英神父



玉里教会
小隈憲士神父



紫原教会
鈴木康由神父



吉野教会
チョン・ホプチョン神父



鹿屋教会
スティーブ神父



垂水教会
丸野六雄神父



国分教会
サンタマリア神父



志布志教会
寝占敦之神父



阿久根教会
牧山田一神父



出水教会
萩原義幸神父



入来教会
ハンマ神父



大口教会
アッシャー神父



川内教会
メニッヒ神父



大笠利教会
内野洋平神父



小宿教会
ティエン神父



大熊教会
タム神父



瀬留教会
ソン・ジンウク神父



名瀬聖心教会
永山幸弘神父



古仁屋・古田町教会
松永正男神父



古田町教会
柳本繁春神父



徳之島・和泊教会
福崎英雄神父



徳之島・和泊教会
大松神父



教区本部
末吉卓也神父



純心聖母会
関根悦雄神父



ラサール学園
山口好信神父



神学院
中野裕明神父



YBU本部
小川靖忠神父



出向
浜崎真実神父



引退
田原 章神父



引退
田邊 徹神父



引退
松森孝郎神父



終身助祭
桃蘭淳一郎師



終身助祭
久保俊弘師



終身助祭
川口 茂師



終身助祭
四條淳也師



終身助祭
石神秀人師



終身助祭
池上聖行師

司祭の約束を更新

司教を囲んで聖香油ミサ

4月12日(水)鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂には、教区各地で働く司祭・終身助祭ら40人余りが集い、司教と共に聖香油ミサをささげた。

来てきたが、離島から駆けつけてくる司祭たちの夜の典礼に配慮し、昨年からの水曜日に変更して実施している。

福音朗読後、郡山司教は「油を注がれた司祭、信徒の役割は打ち砕かれた人々のところに向いて福音を告げること。しかし自分が何かに囚われていてはいけない。こだわりから抜け出し、神の思いに気づいて、役目を果たせるいい司祭、信徒になつて欲しい」と説教し、その後、この日、集まつてきた司祭たちを一人ずつ紹介した。

説教の後、司祭団は「ことばと秘跡によって人々に仕え、与えられた使命を果たすことができるよう」叙階の約束を更新。集まつた80人余りの信徒たちもその後の共同祈願で司教、司祭が神のみ旨を果たせるよう心一つにして祈つた。



油を聖別する郡山司教



ミサの間には、病者のための油、洗礼志願者のための油、聖香油がそれぞれ祝福、祝別され、小瓶に分けられて各小教区に持ち帰られた。

この日のミサの終わりに、新しい任務地へ向かう司祭たちに、司教から任命書が手渡され、信徒たちから大きな励ましの拍手が送られた。

3月26日(日)ザビエル教会でのミサの中で、朗読奉仕者の選任式があった。この日朗読奉仕者の選任を受けたのは、教区神学生

くら咲く
夕方の風の落花のフロント
に

俳句

鹿兒島純心 川上 和
祭壇の復活の光心に射し
春立つや楽の音色も縦に立つ

奄美市 林 常広
学童や一歩前進新学期

吉野教会 徳永ノブ子
司教様春の講話や皆笑顔で
過ぎし日の脳裏に浮かぶさ

短歌

鹿兒島純心 川上 和
ゴルゴタの救いの御業今こ
こに新たな命に桜も吹雪く

始良教会 川口節子
過越しの雨さわさわと降り
止みて主復活の光となりし
御父の右坐し給うや夕映え
の彩雲の美に佇みて居る

朗読奉仕者に2人を選任

池上さん(徳之島)



池上利男さん

と終身助祭候補者の池上利男さん(徳之島教会)の二人。

司教は堅信の七つの賜物を取り上げ、これまで神からのこの恵みを粗末にしていたことを反省して欲しいと促した。その上で、これらの恵み自分のものとし、自分を直視する勇氣を持つて、マリアのように「なれかし」の心で生きられるよう成長して欲しいと結んだ。

説教後は、竹山昭神父の呼び出しにこたえ、司教の前に進んだ二人の朗読奉仕者候補者は、司教から朗読奉仕者の役割についての訓話を受け、聖書を手渡されるなどして選任を受けた。

3日(水)	聖フィリポ 聖ヤコブ使徒
7日(日)	復活節第4主日(世界召命祈願の日)
11日(木)	聖霊セミナー・教区本部・9時
13日(土)	聖体礼拝・カテドラル・6時30分
14日(日)	復活節第5主日
15日(月)	レデンプトール会例会
16日(火)	教区巡礼委員会・教区本部・19時
17日(水)	デイリーノ神父叙階記念(1998年)
18日(木)	聖霊セミナー・教区本部・9時
20日(土)	ザビエル祭実行委員会・教区本部・19時
21日(日)	デイリーノ神父霊名(聖ベルナルディーノ)復活節第6主日
24日(水)	世界広報の日(献金)
25日(木)	カトリック北薩大会、テーマ「祈り」(ラサール学園理事長ホセ・デルコス修道士)・大口明光学園・12時30分
26日(金)	聖霊セミナー・教区本部・9時
28日(日)	聖マリア学園理事会・10時・教区本部
29日(月)	主の昇天
31日(水)	教区経済問題評議会・教区本部・14時
	オリープの会・教区本部・14時
	三教区司祭合同懇話会・那覇教区・6月2日
	聖母の訪問
	タム神父叙階記念(2007年)
	聖霊セミナー・教区本部・9時

会と催し (5月)

祈りの意向

福音宣教 アフリカのキリスト者たち
日本の教会 子どもの貧困の解消

司教執務室便り

聖母月とロザリオ



五月といえば聖母月。五月を聖母月と呼ぶことにした簡単ないきさつを女子パウロ会のホームページで見つけた。「ヨーロッパの春を迎える祭りを背景に広まり、18世紀に入つてさかんになりました。」長い冬の間、春を待ちわびた人々が美しい花々に覆われた春をめぐる気持ちに分かるような気がする。しかも、「この月はマリア様にこそふさわしい」としたところがカトリックの国らしい。18世紀に盛んになったとい

日本でも、五月になると山々が新緑に包まれ自然界がみずみずしく輝き、花々も咲き乱れて美しい時を迎える。しかし、日本で五月といえは、人々は大型連休を連想するに違いないが、信者は「聖母月!」と言うはずだ。信者にとって、マリア様といえはロザリオ。

代父母の皆さんには手持ちが足りずにあげられないこともあるが極力そうするようにしている。

代父母が日本では形式的になっているので、生涯責任をもつて同伴してほしいと思つている。記念のロザリオを共有することで、「ロザリオしている?」など声をかけやすくなるのではないかと。こうして信仰のきずなが深まればいい。そんな願いが込められている。

メダタシが一つずつつながっているように、堅信を受けた皆さんが代父母と生涯つながり続けて、信仰の危機に際しても人生の苦境に直面してもロザリオを握りしめ、母であるマリア様のみ名を口にしながら歩み続けてほしいと思う。

神学生の「僕の長崎への道」 日本二十六聖人の道を歩いて (8)

3月2日(水) 倉敷

午前7時、ミサに与る。一人の信徒が突然、共同祈願を司式司祭に申し出た。「日本二十六聖人の道を歩いているこの神学生が、無事に長崎まで完歩できますように」。平和の挨拶では、日本では珍しい、抱擁も。驚くとともに、素直に嬉しい。

きょうは一日、倉敷教会で今後の行程を整理。明石の松浦謙神父が、神学生時代の同級生の、ここで司牧する野中泉神父を、広島教区でほとんど知己のない僕のために紹介してくれた。

野中神父は一見、寡黙。静かな人。だが二十六聖人の道を、分割ではあるが一年半かけて完歩、雨の日も雪の日もサンダルで踏破したという猛者でもある。

宿泊施設の有無、テント設営の可否、道路の有無や歩行の可否など、自らの体験を踏まえ、これからの経路について具体的かつ的確



に助言してくれる。

また広島教区内の経路に最寄りの、宿泊可能な教会もいくつか教えてくれる。早速、電話で宿泊の可否を問い合わせる。ほとんどの教会から快諾の返事。幸運がすぎるようで、怖い。これまで時折、薄々と感じてはいた。この旅はもう一人で歩いているのではない、もう僕一人の旅ではない、何か言いようのないものが迫る。

いや、初めから、分かっていたのだ。多くの人がびとの善意に運ばれているだけである。

3月3日(木) 川辺一荘
原:約25km
午前10時頃、川辺橋を渡る。きょうは、きのうの朝ミサで共同祈願を申し出た倉敷教会の信徒、Wさんが同行。Wさんは、分割形式で一年半をかけ、主に野中神父の巡礼グループで、日本二十六聖人の道をすでに完歩している。

Wさんから、二十六聖人の道をおかたて歩いた人たちが、現在これに取り組む人たちのネットワークの広さと深さを聞く。明日向かう予定の福山でも、「一緒に歩きたい」と僕を待つ信者がいるという。あらためて、もう僕一人の旅ではない、とたとえようのないものが迫る。これまでに出会った人

びと、僕が歩いていると聞き知った人びとなどが、それぞれの思い、また祈りのうちに、僕の傍らを共に歩いている。「わたしも歩きたい。けれど、この脚ではとても長崎まで歩くことはできない。どうかわたしの祈りだけでも一緒に連れて行ってください」。京都教区で、大阪教区で、また広島教区でも、このような言葉を脚や身体の不自由な方々から聞いた。

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 5月号

「九州電力に勤めている人や原発で生計を営んでいる人がいるのだから、教会は原発に反対することはできないのか」という意見を耳にすることがあります。たしかに教会の中に原発で生計を維持している人がいるでしょう。その方々が、原発の問題について発言できなくなったり、居心地が悪くなったりすることがないようには配慮が必要でしょう。しかし、そのことと原発の是非は区別する必要があります。昨年出版された「今こそ原発の廃止を 日本のカトリック教会の問いかけ」(日本カトリック司教協議

会発行)は、原発を容認する立場を頭から否定するのではなく、対話への道筋を求めています(274ページ参照)。例えば、「石油・石炭などの化石燃料に比べて原発は二酸化炭素の排出が少なく、地球温暖化に役立つから必要だ」という意見に対して「理由をあげて反論を丁寧に説明しています(251ページ参照)。また、「原発はコスト安である」という意見に對しても、コストの内訳を具体的に説明し、原発のコスト高を裏付けています(143ページ)。私たちは結論の対立から対話を閉ざすのではなく、お互いの根拠を示しながら、地域づくりを模索すべきではないでしょうか。

原発は既に立地地域(鹿児島の場合薩摩川内市)を分断し、市民の間に分裂をもたらし、地元で集会を開き、反対の声をあげることに重圧を感じていると語っています。薩摩川内市

+KABAYAN SEKSYON+ Ang mga Dukha ay Nasa Gitna ng Ebanghelyo

Sa kanyang pahayag sa mga pinuno ng Simbahan ng Pilipinas sa Katedral ng Maynila noong Enero 16,2015, binigyan-diin ni Papa Francisco: "Nasa gitna ng Ebanghelyo ang mga dukha, nasa puso ng Ebanghelyo; kung aalisin natin ang mga dukha sa Ebanghelyo hindi natin mauunawaan ang buong mensahe ni Hesuskristo."

"Para sa ating mga pari at sa lahat ng nagtalaga ng kanilang buhay sa Diyos bilang mga relihiyoso, ang pagbabalik-loob sa kasariwaan ng Ebanghelyo ay nangangailangan ng araw-araw na pakikipagtagpo sa Diyos sa panalangin...nangangahulugan ito ng isang pagsasabuhay na sumasalamin sa karukhaan ni Kristo, na ang buong buhay ay nakatutok sa pagtupad sa kalooban ng Ama at paglilingkod sa kapwa."

Maliwanag ang mensahe ng Santo Papa: "Tanging sa pagiging dukha lamang, sa pagiging dukha ng ating mga sarili, sa pagtalikod sa ating pagiging kontento sa ating sarili, sa ganitong paraan lamang tayo maaaring makiisa sa mga kapatid nating kapus-palad. Makikita natin ang katotohanan sa bagong liwanag at makakatugon tayo ng may katapatan at integridad sa hamon na ipahayag ang pagka-radikal ng Ebanghelyo sa isang lipunan na nahirati sa di pagsasali sa ilan, pagkapako sa nakagawian, at iskandalosong di pagkakapantay-pantay."

Sa Ebanghelyo lang natin mas mauunawaan ang plano ng Diyos Ama kung paano maging ganap na buhay ang mga salita ng Panginoon Hesuskristo. Ang pagtanggap sa katotohanan na itinuturo ng Ebanghelyo ay ang siyang daan sa pagbabago ng sarili at puso. Sa mga tumatanggap ng Ebanghelyo na punong-puno ng pagmamahal at isinasabuhay ang bawat salita ng Diyos, ay pinagkakalooban ng Diyos ng iba't ibang biyaya na nagpapasaya sa bawat tao, lalung-lalo na sa mga dukha. Ipinamulat ito ni Hesus sa kanyang naging buhay dito sa mundo ang kaganapan ng Ebanghelyo.

Katesismo sa Taon ng mga Dukha (Fr.Dino Orolfo)

矢掛で遅い昼食。Wさんから、野中神父との珍道中を聞く。全行程をサンダルで踏破した逸話のみならず、地図上では明示されていない経路が実際は途中で消えたり、一時迷いに迷った拳句元の場所に舞い戻っていたりなど、枚挙にいとまがない。一人旅にない、愉快を知る。

玉里教会の主任司祭小隈憲士神父は、日本カトリック司教団のメッセージ「いのちのまなざし」(増補新版)を学ぶ会を始めることを決めそのスケジュールを発表した。

第一回	第1章 聖書からのメッセージ	5月28日(日)
第二回	第2章 人生の歩みの中で	6月25日(日)
第三回	第3章 生と死をめぐる諸問題 (一) 生と死の尊厳 ①	7月30日(日)
第四回	第3章 生と死をめぐる諸問題 (一) 生と死の尊厳 ②	9月24日(日)
第五回	第3章 生と死をめぐる諸問題 (二) いのちを脅かすもの①	10月29日(日)
第六回	第3章 生と死をめぐる諸問題 (二) いのちを脅かすもの②	11月26日(日)

の使命だと思えます。

定例会の案内 (毎月第3土曜日) 日時:5月20日(土曜日) 13時~15時 場所:教区本部

- 内容
- ① 主の祈り
 - ② 情報交換
 - ③ 原発が危ないのはなぜでしょうか? (放射能と被曝)